



卓 話



NO. 957 2007年8月2日
東京四谷ロータリークラブ



今年度のR Iのテーマと指標 国際ロータリー第2580地区 ガバナー 浅川 皓司氏

今年度2580地区のガバナーを仰せつかりました王子ロータリーの浅川です。四谷ロータリークラブには前年度、地区協議会でホストクラブをお願いし、大変お世話になりました。重ねて御礼申し上げます。そして本日新会員を迎えた場に公式訪問として伺えた事をうれしく思います。一日も早くクラブに馴染み、良き仲間をつくるとともに、奉仕にご参加頂きたいと思ひます。



ガバナーという存在はその地区でたった1人の国際ロータリーのオフィサー、つまり役員として、国際ロータリーの会長のテーマとメッセージ、諸事を皆さんにお伝えします。又皆さんのクラブの現況と活動の状況を国際ロータリーに伝え、皆さん方の活動を更に活発にして頂く事がガバナーの仕事です。とはいいうもののロータリーというものはそれぞれのクラブが独立し、自主権を持って独自に運営をします。クラブの運営は標準クラブ定款と標準クラブ細則から著しく逸脱しない限り、会員の皆さんの意志で動かす事ができます。ロータリーはボトムアップ、つまり皆さんの意見を国際ロータリーに持ち上げる事はありますが、上からのトップダウンで指図をする事は一切ありません。ただその時々の中の変化に対応しながら、色々なアドバイスをすることはあります。それを取り入れるか取り入れないかは各クラブで考えれば良いのです。この様な事を前提として、今年度のRI会長のウィルキンソン会長のテーマとメッセージをお伝えし、その後私なりの考えを申し上げたいと思ひます。

Rotary Shares 「ロータリーは分かち合いの心」というのが今年度のテーマです。読んで字のごとく、我々の持っている職業人としての専門的な知識や経営者、団体の長としての能力、慈愛の心、寛容な心、そういったものを必要とする人達に分かち合っていこうというのがウィルキンソン会長のご主旨だと思ひます。そしてウィルキンソン会長は前年からそのまま引き継いだ強調

事項として、水保全・保健及び飢餓救済・識字率向上・ロータリー家族の4つを掲げられました。先の3つは現在の日本ではあまり見あたりませんが、世界にはこのような問題で苦勞をしている方が沢山おられる事をご認識頂きたい。又そういった人達にロータリー財団を通じて、手を差し伸べる事が望まれています。そうした奉仕活動に自ら直接現地に赴くロータリアンの方も多数おられますが、現地のロータリークラブが中心になって力を入れていますから、日本にいる皆さんには財団に寄付をする事をお願いしたいと思います。財団委員長より、皆さんの寄付で賄われる薬等がどれほど役に立っているかをお伝えして頂きたいとの事でした。私はそうした財団の活動を1人1人の会員の方にお話したいと思ひます。又困っている人達に対する支えだけでなく、財団は昔から奨学制度を立ち上げており、皆さんの寄付の額に応じてロータリー財団の奨学生を派遣しています。それから最近では世界平和の為に自ら身を捧げたい、教育を受けたいという若い人達に勉強してもらおうと、世界の7つの大学にロータリーセンター設けました。その内の一つである日本の国際基督教大学では毎年数名の大学院生を採用しています。こうした活動をよりご理解頂きたいと思ひます。

ウィルキンソン会長のテーマとメッセージはご理解頂けたと思ひますが、年度の初めにテーマを掲げられるのは個々のクラブ会長とRI会長です。ガバナーといえども年度テーマというのは厳密に言うと掲げられません。そういう事で私の指標、モットーという事で話をしたいと思ひます。私が何に一番こだわってロータリーに籍を置いているのかと申しますと、奉仕活動の中の職業奉仕が自分の生き様とぴったり合っているからです。今年サンディエゴでガバナーとしての教育を受けて参りました。それまで最近の国際ロータリーは昔我々が入った頃と大分違う方向に進んでいるのではないかと。特に4大奉仕が軽んじられて、職業奉仕がはずれたり、道徳律がなくなったりと、一体どういう事になるのかと思ひましたが、先のボイド会長、そして今のウィルキンソン会長は、ロータリーの4大奉仕の必要性、特に職業奉仕の必要性をおっしゃっていました。特にビチャイ・ラクルさんが「ロータリーに職業奉仕がなくなったら、他の奉仕団体と何処が違うのですか？」とおっしゃっていたのが印象的でした。正に職業奉仕はロータリーにしか

い奉仕です。

では職業奉仕とは何かという事になります。宣言を読むと難しい部分もあり、色々な変遷を経て今日に至っているのですが、私は本質はいたって簡単単純に考えています。ロータリーの職業奉仕は職業人として高い道徳感、倫理感を持って仕事に励みましょう、そしてその仕事地域社会から受け入れられるだけでなく、地域社会から必要な仕事になるように職業人として努力をしましょう、という事だと思います。こうした本質はロータリーに限らず色々な所でも見受けられます。特にイギリスがあれだけの帝国を維持できたのは、パブリックスクールで国を背負ってたつ貴族の子弟を教育する際、知識を授けるだけではなく、人間はいかにあるべきかという人格形成に重きを置いたからです。そしてその方達が社会にしっかりした道徳観、倫理観を持って出られます。世に言うnoblesse oblige、「高貴の義務」という日本語で訳されていますが、高い地位につけばつくほど道徳観、倫理観が必要だという事です。これは何もパブリックスクールに限られた事ではなく、紳士道、騎士道そして日本の武士道に通ずるものだと思っています。指導的立場にあるものは常に高い道徳観、倫理観を持つべきである、それがロータリーの職業奉仕だと思っています。日本の明治、大正、昭和にかけてできた私立、官立、公立の学校はすべてnoblesse obligeを根幹に置いた教育を授けてきました。そうした教育を受けた方々が、戦後の日本を今の形に復興されたのです。

昨今新聞紙上を見ると本当に倫理観の欠如が目につきますが、今こそロータリーの職業奉仕の精神をすべての職業人と分かち合い、共にそういう姿勢で仕事をしていく事が必要であると思います。日本近代産業の産みの親である渋沢栄一氏が片手に算盤、片手に論語と言っておられました。職業人として常に利益を追いながら、同じ片手に論語を持つ、つまり私益と公益のバランスをとる

という事です。我々職業人は常に私益、公益の狭間で葛藤していると思いますが、そうした事を考えながら志を持っている人達がロータリーに集まっているのだと思います。ロータリーで同じような悩みをうちあけ、そして理解して貰えるのが仲間だと思いますので、是非何でも話せる仲間づくりをして頂きたい。私の前任の小澤ガバナーが、「人間の緊張というのは一週間が限度なので、ユダヤやキリスト教では安息日があるのだ」と言っておられました。正に人間の緊張感というものが一週間が限度であるなら、週に一回同じ立場で苦勞している皆さんの顔を見れば、ある意味で慰めに、又志を新たにす機会になるのではないのでしょうか。

四谷ロータリークラブだけに止まらず、このバッジを付けていればどこに行っても歓迎されますので、是非色々なクラブをご訪問すると良いと思います。特に海外に行かれた場合には色々なクラブに行きたくたい。香港、台湾に行きますとすぐに日本語を話せる方が近づいて来てくれますし、たとえ言葉の通じない国でもこちらが気後れする程大変歓迎されますので、ロータリーのメーキャップを楽しんで頂ければと存じます。又、近くでも東京ロータリークラブなどは本当に歓迎してくれますし、名刺を頂いてびっくりするような方も沢山おられます。また、北ロータリークラブ、東ロータリークラブも女性のメンバーが多数おられて、同じようにメーキャップするのも楽しいものです。紀尾井町も恵比寿クラブも司葉子氏、松島トモ子氏、それぞれのパストガバナーが歓迎してくれますから是非メーキャップを楽しんで下さい。それから、私はいたずらなクラブの増強拡大を申しません。むしろ四谷ロータリークラブの楽しい雰囲気を増してくれる相応しいメンバーを増強してくれば良いのではないかと考えています。皆さんがロータリーライフをエンジョイし、喜ばれるようなクラブづくりをして欲しいと思います。